令和５年度
金沢大学ステークホルダー協議会

実施報告書

令和５年11月

国立大学法人金沢大学

概　　要

日　時：令和５年９月22日（金）　14：00～17：00

会　場：金沢大学自然科学本館大講義棟〔石川県金沢市角間町〕
　　全体会・まとめ：レクチャーホール，
　　分科会：大講義室Ａ・Ｂ

プログラム：

14:00	開会
14:03	学長挨拶・近況報告
14:45	分科会
16:00	分科会報告・全体意見交換
17:00	閉会

開会のあいさつをする和田学長

参加者数：107名

【内訳】(　)はオンライン参加者で内数

学外：38名（9名）

自治体５名（３名），企業11名（２名）

高校関係者７名（１名），地域９名（１名），

経営協議会委員１名（１名），学友会２名（１名），

報道機関１名，その他２名

学内：42名（4名）

学生14名

教職員28名（4名）

（うち会場事務スタッフ17名）

学内列席者：27名

あいさつをする安宅建樹　学友会会長

閉会のあいさつをする大竹理事

ステークホルダーのご意見

分　科　会

昨年度に引き続き今年度も，ステークホルダーの皆様からより多くのご意見をいただけるよう，７つの分科会を実施いたしました。参加者は７つのテーブルに分かれ，本学教職員とステークホルダーの皆様による「オール金沢大学」で意見交換を行いました。

なお，今年 5 月に G7 富山・金沢教育大臣会合のエクスカーションを実施し，G7 各国の大臣等関係者が本学を訪れたことに因み，テーブル名を七福神としました。本学の先端研究等の紹介のなかで，”Another　G7”として各国の参加者に日本の七福神を紹介したことから，着想を得ています。

■恵比寿■

テ ー マ ：金沢大学の入学者選抜試験：グローバル人材育成のための入試改革の取り組み

ファシリテーター：学長補佐　山本靖彦，学長補佐　谷内通

ステークホルダー：企業１名，高校関係者２名，その他１名，学生３名

金沢大学の入試の種類とその目的，主体性評価，英語外部検定試験の利用，特別選抜や関連する高大接続プログラムの制度や GSC プログラム，近年の入試結果等についてステークホルダーへ報告を行った。

【意見交換】
特別選抜入学者へインタビューを行った。

１．受験の動機について

・KUGS 特別入試入学者１（県外から）：高校で取り組んだ課題研究を生かせる入試を探している過程において自分で KUGS 特別入試というものを見つけた。やってきたことを生かしたい，チャンスを増やしたいというのが受験した動機である。

・KUGS 特別入試入学者 2（県内から）：高校の先生から紹介。大学の様子を知ることができて，自分の興味を深められるならと考えて受験した。コロナ禍における留学の必要性というラウンドテーブルに参加し，調べたことや考えたことをノートにまとめた。受験勉強以外にも自分の興味を持つことができた。レポートの評価は厳しいと思ったが，よい経験だったと考えている。

・超然特別入試入学者：高校の古典の授業で先生から超然文学賞があることを紹介された。小学校 5 年生の頃から当時の担任の影響で短歌や俳句を作っており，超然文学賞を受賞することができた。受賞後に超然特別入試の存在を知り，超然文学賞が入試に繋がるとは思っていなかった。受験を考える中で面倒をみてくれた古典の先生に憧れて学校教育学類を受験した。

2．（高校関係者から）KUGS 特別入試を受験するうえでの高校の先生からの指導について

・KUGS 特別入試入学者 1：高大接続プログラムのレポート添削やプレゼンの練習をみてもらった。

・KUGS 特別入試入学者 2：進路指導の先生や研究テーマに関連する先生だけではなく，担任や副担任の先生等のいろいろな先生方にみてもらった。

3．入学後の学習環境等における感想や要望について

・KUGS 特別入試入学者：入試で関わった先生が声をかけてくれる。KUGS 特別入試での入学者は自分のことに熱中している積極的な学生が多い印象である。特別な扱いがなくとも伸び伸びやっているため，特別入試での入学者だからといって特別な扱いは求めていない。

・超然特別入試入学者：KUGS 特別入試だと学類で専門とする教科（英語，保健体育など）が入学時に決まるが，超然特別選抜だと専門は経過選択性なのが自分には合っている。超然特別選抜の入学者を優先とした「文芸創作実践」という授業が行われているが，学校教育学類の必修授業と重なって受講できなかったのが残念だった。超然文学特別入試は認知度がまだ低く，知られていないことがある。受賞者の先輩が中心になって受賞学生全員が参加して冊子を作成したことで創作活動の継続につながっている。創作活動継続のためにも受賞者同士がもっと繋がりやすい工夫を大学が援助してくれるとうれしい。

4．超然特別入試入学者における入学後の学習や超然特別入試がなかった場合の進路，家族の思いについて

・超然特別入試入学者：英語の授業において英語力の足りなさを感じた。超然特別入試がなかった場合，地元の私立大学へ進学していたと思う。家族は地元を離れることを多少心配していたが，簡単には入ることができない金沢大学に入学でき，楽しい学生生活を送っていることについてはとても喜んでくれている。

5．その他御意見

・高校関係者：当事者の学生の声を聴いて KUGS の取組について改めて素晴らしいと感じた。中学と高校の学習内容のギャップに悩んで，高校での学習に興味を失う生徒もいる。自分が目指すものを見つけ，高校での学習の動機付けを維持するうえでも有効と考える。

・高校関係者：特別選抜の入学者の生の声を聞いて，金沢大学のねらいが大成功であったことを実感した。目標を明確に持った学生が集まっている。一方で，そのような目標を持っていない高校生も多いので，高校として戦略的に入学させるというやり方が考えにくい面もある。課題研究の質を高めるきっかけにできないかと考えた。「高校での学び」のレポートも，生徒自身が高校での取り組みを振り返り，メタ認知を持つ上で有効だと思う。

・ファシリテーター：KUGS 特別入試の制度や入学者の質についての評価は高まっているが，志願者が増えていないことが課題である。KUGS 高大接続プログラムはポータルサイトを通じた動画教材の提供，質問機能，オンライン面談等でプログラムとして指導を行っており，高校の先生方にご負担を欠けない体制となっているので，そのようにご指導いただければと考えている。

【参考】
・KUGS 特別入試：https://www.kanazawa-u.ac.jp/admission/bachelor/kugs
・KUGS 高大接続プログラムポータルサイト：https://kugspro.adm.kanazawa-u.ac.jp/
・超然特別入試：https://www.kanazawa-u.ac.jp/admission/bachelor/chozen

■大黒天■

テ ー マ ：金沢大学におけるジェンダーバランス戦略 ―女子枠特別入試の導入―
ファシリテーター：学長補佐　本田 光典，学長補佐　本所 恵
ステークホルダー：企業１名，高校関係者１名，教職員２名，学生１名

金沢大学未来ビジョン『志』では，「多様な背景を持つ者の受け入れ拡大」，「ダイバーシティ環境の向上」を謳っており，その一環として令和６年度入学者選抜試験から理工学域の５学類において，女子枠特別入試を導入する。まず，本学の概要と現状について説明後，女子枠特別入試，ジェンダーバランスを整えるために何が必要か，意見交換を行った。

【意見交換】
1.　女子枠の可能性・予測をどの程度に見積もっているのか（他大学等の経験を踏まえて）
・枠が小さく効果の程が検証できない大学もあるが，本学は東工大に次ぐレベルで女子枠を増やした結果，河合塾の模試で志願者が増加（対前年比：理１０３％，工１０５％）した。他の学部志願者が減る中で，全国的に大きな枠の設置が効果を及ぼしていると考える。

2.　本当に研究をしたい学生は，女子枠でなくても進学すると思われる。女子枠で入学する学生は研究者になることはないのではないか。
・研究者にはすぐにはならない，というのはその通り。まずは学類の女子比率を上げて入りやすくした上で，大学院に進学する人を増やす。学類に女子がいても大学院進学率が低い学類もある。多様なキャリアパスを示すことで進学者を増やしたい。
・同学年女子は全員大学院に進学した。理系は進学が普通。（学生）

3.　ジェンダーバランスを考える時に，女子枠入試以外，東工大や名工大にはできない，金沢大学だからこそできることはないか。学校教育学類卒業者が理科好きを育てる，といった長期的な視点での取り組みが大事。
・他大学では高校推薦で枠を作っていることが多く，学校で一人と限定される。本学は多くの理系が得意で好きという女子学生に志願してもらえるよう，共通テストを課して基礎学力を保証しつつ，入試科目も工夫している。

・女性教員，女性研究者の採用に取り組んでいる。
・女性教員，女性研究者との交流，キャリアパスの提示を行っていく。

4.　女子枠での入試は要求が低いように見える。女子枠の入学者だけ学力が低い，入学後授業についていくのが大変という心配はないのか。
・理工学域としては，女子枠だけ易しい入試に見えるようにはしたくはない。共通テストや口述試験で，基礎学力や意欲をしっかりと確認する。ハードルを下げるのではなく，受験科目で工夫して，より「理系」に興味がある得意な女子が受けやすくしている。
・調査データでは，全学類で平均的に女子学生の方が成績は高い。

5.　女子枠の個別学力試験が少ない（数Ⅲ・物理を課さない）が入学後のフォローはあるのか。
・数学専門的にを学びたい女子が「化学」で受けて入ってくるというケースはある。大学の入門科目で工夫しつつ対応している。新しいフォローアップ科目を作る予定はないが，必要に応じて考える。

6.　理工系の女子，デジタル系はアカデミック・キャリアだけでなく，産業界から求められる人材である。募集人数はもっと多くすべきではないか。
・現在，超売り手市場で子育て支援なども充実してきており，非常に条件の良いキャリアパスとなる事を学生，高校生に示していきたい。募集人数については，大胆に増やしたと思っている。募集枠の充実と定員の充足の両方について，大胆かつ慎重に進めていきたい。

7.　その他の意見
・自分の学年にはもう少し女子がいた。今年入学者は女子が少ない。
・高校では理系女子自体は増えている。昔は 50 人中で 2～3 人だったが，現在勤務校では理系 40 人の内女子は 18 人ほど。しかし，数学系や理学系に進み工学系は少ない。
・大学では，専門の学びの他に，学生生活を楽しみたい。しかし，工学系は文系よりも非常に忙しい。金沢大学では，学生を応援する体制が非常に厚く感じる。
・ジェンダーバランスという観点では，保健学類看護系の男子比率も重要な課題である。

■福禄寿■

テ ー マ ：大学に求めるイノベーション人材の育成と大学発ベンチャーの役割
ファシリテーター：学長補佐　佐無田光，学長補佐　長谷川浩
ステークホルダー：高校関係者１名，企業３名，学友会等１名，学生１名

金沢大学未来ビジョン「志」では「社会との和の創造と深化」を掲げ，社会との共創による研究展開，次世代イノベーション人材の育成，社会への還元を推進している。本分科会では，特に人材育成と起業支援に焦点を当てて，地域と大学の役割について意見交換を行った。

【意見交換】

1．専門人材の育成

・イノベーションを起こしていくとなると，単なる技術者ではなく，問題解決力やリーダーシップを持った人材が，企業には必要となってくる。大学には，幅広い教養と突出した能力を持つ人材を育ててほしい。

・電子機器の発達でおろそかになりがちだが，視覚や聴覚だけでなく，五感を総動員して現場で考える力が大切である。日本語は，相手の本音を聞き取りにくい言語でもあるので，ボキャブラリーにも気を配る必要がある。

・高等学校では，全国的に「探求」に力を入れた教育に取り組んでいる。自ら考える力や発信する力を醸成して，企業に貢献できる人材を育成している。相互理解を深めるためにも，企業の方々は，もっと高校や大学に要望を伝えてほしい。

・日本はいわゆる「サラリーマン会社」としての企業が多く，管理職を育てる文化が根強い。ただ，最近では，特定の事業にコミットする「エキスパート人材」に手を挙げられる制度を取り入れることで，専門人材を育てる会社も出てきている。

・金沢大学では，STEAM 教育において幅広い教養と突出した能力を持つ人材を育てている。バックグラウンドを持った上で，技術を活用する。そのような教育を強化していかなくてはならない。

2．「博士人材（ドクター人材）」の育成

・日本の大学全体として，日本経済を支える人材の育成に向けて，博士人材の育成強化に舵が切られている。

・企業としては，博士人材を採用したいが，なかなか採用まで至っていない。需要に対して希望者が足りないというのが現実にある。

・博士人材は，企業への就職よりもアカデミアに進む傾向が強い。大学としては，博士人材を育成するだけでなく，企業への就職マインドの醸成も含めて行っていく必要がある。

・日本全体として，ドクターに進む学生が少なくなっている。金沢大学としては，博士課程進学者を対象にした奨学金も用意しているが，それでも定員を満たせていないのが実情である。また，金沢大学では，ドクターの就職不安を取り除けるよう，博士後期課程修了後の就職受入先を確保する，Promising Researcher 制度のような仕組みを検討している。

・米国の MBA では，企業の経営層を育成する仕組みがある。リカレント教育やリスキリングなどが広まりつつある現代の日本においても，「学士→就職→大学院」という流れが少しずつ定着してきている。

・高校生の進路希望を聞くと，理系なら修士（博士前期）までを想定していて，博士（後期）を考えている生徒はほとんどいない。身近にモデルケースがおらず，イメージができないのが要因かもしれない。ドクターの学生の声が直接聞ける機会を設けたり，高校生向けの講演を実施したりと，一層の宣伝が必要に思える。そもそも，一般的に博士課程自体が浸透していないようにも感じる。

３．学生の起業支援

・日本では，起業でうまくいっている会社が少ない。失敗を許さない日本の風土とマッチしていないのも一つの要因になっている。

・近年では，起業したい学生が増えつつあり，日本国内でも投資家が育ちつつある。大学にベンチャーキャピタルもできるなど，徐々にチャレンジングな人材が育っていくことを期待している。

・ベンチャーは本当に難しく，アイデアがあっても簡単には実現しない。例えば，技術が確立し，ニーズもあるのに，業界の商慣習によってビジネスとして実現しなかったケースもある。

・企業として学生のビジネスアイデア醸成のサポートをした際，アイデアのベースがインターネットに出ている知識や課題に偏り過ぎていると感じた。自身の経験としての課題感が不足していると，エンジンがかからず，起業にたどり着くことも難しい。

■毘沙門天■

テ ー マ ：基礎研究，応用研究，社会実証研究を通じた『未来知による社会貢献』を加速する取り組み

ファシリテーター：学長補佐　坂本二郎，学長補佐　河﨑洋志

ステークホルダー：高校関係者１名，地域１名，教職員１名，その他１名，学生２名

金沢大学では未来ビジョン「志」を策定し，研究・教育・経営の強化を図っている。分科会「毘沙門天」では金沢大学の総合知，未来知，分野融合による研究の取り組みに焦点を絞り，金沢大学で行われているチャレンジや金沢大学に期待されることとして，①G7 教育大臣訪問で世界にアピールした金沢大学の研究（主にナノ生命科学研究所の活動）②未来知実証センターの概要とその計画 ③異分野融合研究で世界的研究拠点を目指すサピエンス進化医学研究センター等について説明があり，その後意見交換を行った。

【意見交換】

１．サピエンス進化医学研究センター，未来知実証センターで学びたい場合，どの学類に進めばよいか教えてほしい。また，高校生が興味を持つように，両センターの研究概要を，金沢大学公開講座で高校生向けに公開してほしい。

・［サピエンス進化医学研究センター］古代文明をより学びたければ人文，医学系であれば医学というように，より学びたい分野を重点的に考えてほしい。まだ整備段階だが，将来的には，教育するための専門的なコースを作っていきたい。

・［未来知実証センター］ライフサイエンス部門（医学，生物学等）とコミュニティ部門（自動運転等モビリティ関係）とグリーンイノベーション部門（サスティナブルな二酸化炭素の吸収やバイオプラスチックの研究等）があるので，それぞれの関連分野の学類に進めば将来，未来知実証センターの中で活躍する機会が出てくる。

・領域は問わず自分のアイデアで会社を作るなど，未来知実証を中心に考えている融合学域も選択肢の一つとなる。

２．未来知実証センターは，社会ニーズを踏まえた課題を研究するショーケース群の融合研究フロアである１・２階から，産学官金が交流し実証研究をする 3 階へ，さらに社会実装に向けて発展させ，金沢大学ベンチャー企業等が入る 5 階へ上がるまで，4 年間若しくは 6 年間しかない中で何年スパンを想定しているのか。

・修士で入り博士に出るくらいのタイムスケールで例えると，最初 1 階に入っていた場合は 3 階まで発展する。また，3 階まで発展している研究であれば博士の時には 5 階まで発展しているといったタイムスパンと考えている。

3.　今後，文系の研究者や学生が，金沢大学の方向性にどのように寄与できるのか。例えば未来知実証センターも理と医の融合を想定している印象だが，文系はどのように関われるのか。

・文系との融合は非常に大事である。人社系とのシンポジウムを開催する等，お互い雑談やアイデアを出し合う場を設けることで，何か繋げることができるかもしれない。

・URA（University Research Administrator）が，文と理，医と理の間を繋ぎ，支援してくれていることも分野融合において期待できる。

４．その他の意見

・色々な方面にアンテナを張り，自分の興味に基づき勉強していく中で，融合研究に結び付くと良い。

・生協，理工，医学間でニーズとシーズを理解することで，社会実装の一つのきっかけになるかもしれない。

・医学系と理工系で学生レベル，大学院生レベルでお互いに知識を出し刺激し合うと，より研究も発展する。角間と宝町はキャンパスが少し離れているため，交流の機会を増やす環境を作ることは重要で，大学院生のラボローテーションはとてもよいと思う。

■布袋尊■

テ ー マ ：金沢大学が地域と社会に一層愛されるための広報とは？

ファシリテーター：学長補佐　瀬戸章文，特任助教　見寺祐子

ステークホルダー：自治体１名，地域３名，教職員１名，学生２名

本学の広報活動をより良くするため，テーマに関連する１～３について，大学から説明があった後，種々意見交換が行われた。

１．広報コンテンツ

公式 Instagram や Youtube など，新しい金沢大学広報の取り組み等，本学の広報・ブランディング戦略について概要を説明し，今後金沢大学に期待するコンテンツについて意見交換を行った。

【意見交換】

以下コンテンツの希望があった。

・職員同士の顔と名前が一致する内部専用のコミュニケーションツール（非公開のインスタグラムアカウントを作成するなど）

・複雑化する入試制度を分かりやすく解説するコンテンツ

・各学類の特徴を紹介するコンテンツ

・地域や企業と学生が一緒に活動している姿を紹介するコンテンツ

・地域との密着度を向上させるコンテンツ

・研究室やゼミなど，チームや「つながり」を意識したコンテンツ

２．どのように伝えるか

現在の広報活動について紹介があった後，今後より多くのステークホルダーに認知してもらい，多くの金沢大学のファンを獲得するため，どのような方法が効果的・効率的か意見交換を行った。

【意見交換】

・チームでの「つながり」を意識した広報を取り入れることで，金沢大学の魅力など内面性を見出すことができるのではないか。

・情報を得たい人と提供したい人をより効果的にマッチングすることで，自分たちが気づいていない魅力を引き出せるのではないか。

・地域との「つながり」について，SNS を通じて伝えることで，よりエンゲージメントが高まり，多くの人に魅力を拡散できるのではないか。

・城内キャンパスはそれだけで独自性があった。角間でも「森の中のキャンパス」という地の利を活かして，週末のコンサートやスポーツのイベントを開催するなど，地域とのエンゲージメントを高められるのではないか。

・「あえて見せない」（シークレットイベントなど，現地に誘導する）というやり方もある。
・「地域からみた金沢大学」，「卒業生から見た金沢大学」など，様々なステークホルダーに広報に参加してもらい，客観的な視点で金沢大学を紹介してはどうか。
・金沢大学に関係した著名人をアンバサダーに任命するなどとして，より広く広報してもらってはどうか。
・ウェブサイト，YouTube，Facebook，Instagram，冊子など，それぞれ好んで利用するツールが年代ごとに異なる。すべて同じ内容でもよいので，広く情報を発信してほしい。
・ウェブサイトに情報を集約して，そこにたどり着けるように導線を整えてほしい（受け手を意識した情報発信が必要）

３．金沢大学のセールスポイント

本学の広報の指針，情報メディアの状況などを説明した。自学自修や人間力，雑談のチカラなどの校風，学生気質に関するコンセプトを共有し，また世界的研究拠点や研究支援などの取り組みを紹介した。続いて，大学の置かれた地域の特性，環境などを踏まえ，本学のセールスポイントとは何かを議論した。

【意見交換】

・学生が持つ素直さと，新しいものを創り出す創造性の両面を活かしたい
・真面目な中から「殻」を打ち破る姿を見たい
・プラスアルファのところ（一般的な金沢大学のイメージではなく）を強調したい
・地域のチカラを活用したい
・学内および地域活動で若い活気あふれる姿を見たい

その他，広報活動の概要として，広報スタッフの紹介，公式 Web サイト，YouTube，Instagram などの活動を紹介した。現在取り組んでいる「公式グッズ」について，良いアイデアがあれば，アンケートに記載いただくか広報戦略室までご意見をいただくこととした。

■寿老人■

テ ー マ ：なぜ今ダイバーシティ推進がもとめられているか？

ファシリテーター：学長補佐　長谷部徳子，学長補佐　柿川真紀子，特任助教　江口友佳子
ステークホルダー：企業２名，地域１名，教職員１名，学生２名

ダイバーシティ推進について，①～③のとおり紹介があった。

① 多様性（ダイバーシティ）があるメリット
多様性（ダイバーシティ）と融合（インクルージョン）を掛け合わせることで新たなイノベーションが創出される。

ジェンダードイノベーション：これまで無意識のうちに一方の性別に偏ったデータや商品，制度ができた事例があるが，ジェンダーギャップを埋めるために新たな視点や方向性を見出すことでイノベーションを創出する。

② ダイバーシティを推進する金沢大学の取組
以下の 5 部門で構成されるダイバーシティ推進機構を設置し，ダイバーシティ&インクルージョン推進の取組を行っている。
・キャリアデザイン部門
・ワークライフバランス部門
・グローバライゼーション部門
・ユニバーサル部門。
・次世代育成部門
（参考）ダイバーシティ推進機構：https://ipdi.w3.kanazawa-u.ac.jp/

③ 金沢大学のダイバーシティの現状
・女性教員（特任を含む）の割合・・・18.9%
助教の割合が高く，教授の割合が低い傾向にある。
・部局別女性教員の割合
融合研究域や人間社会研究域は女性教員割合が高いが，理工研究域は全体的に女性が少ない。医薬保健研究域については，医学系の教授職が少なく薬学系の女性割合が減少傾向にあるが，保健学系の女性割合は高い。
・管理職における女性の割合・・・32%（事務系 24%，教員 8%）
・外国籍教職員の割合・・・3%（うち女性 39.7%）
・障がいのある教職員の割合・・・1.2%（うち女性 45.3%）
・男性教員における 28 日以上の育休取得率・・・11.76%

【意見交換】
1．多様性（ダイバーシティ）
・今さらダイバーシティ推進についての議論をしていることに違和感がある。「なぜ今ダイバーシティなのか」ではなく「なぜ進まないのか」について掘り下げて議論する必要がある。
・日本人は似たようなバックグラウンドをもった人間が集まりやすいが，アメリカやイギリスは様々なバックグラウンドをもった人間が集まるため，海外では必然的に競争が生まれる。日本も海外と競争していくためにダイバーシティを考える必要がある。大学の目標には具体的な目標がないため，自分たちを厳しい状況下に置くためにも具体的な数値目標をもって取り組む必要がある。
・「多様性」という言葉がなくなることが真の「多様性」である。

2．育休取得
・金沢大学の男性育休取得率の低さに驚いた。私の会社では人材確保の観点から，女性の育休取得率はもちろん男性の取得率についても意識することにより男性育休取得率 100%とし

ている。
・就職先の選定基準として女性の育休取得は当たり前でパートナーの取得も必須と考える。女性ドクターに対する無意識の偏見もあるため，女性研究者の立場向上も求める。
・育休取得率の数字だけにとらわれず，本人や家族の幸せを感じることが一番重要である。

3. 学生から大学へ求めること
・多様性を受け入れるマインドを育ててほしい。
・学生一人一人が幸せになれるよう学生一人一人に目を向けてほしい。
・大学の選定理由は魅力的な教員がいるかどうか。多様な教員の魅力を発信してほしい。
・理系の留学生が少ない。大学内で海外の文化をどんどん根付かせていってほしい。結果的にそれが金沢大学のブランドとなり魅力が広がる。

4. その他の意見
・大学は失敗を恐れず挑戦できることが強みである。学生が社会にでたときに社会全体のダイバーシティを牽引できるよう，大学でダイバーシティ環境の整備を推進してほしい。
・人材確保の一つの戦略として，若い人の就職先として選んでもらえるように情報発信や改革，キャリアプランを透明化して開示を行っていくべき。トップダウンで進めることが重要である。
・大学の留学生は 30 年前と比較して増加しており，家族を帯同する人も増加しているため，家族を含めた形での留学生対策が必要。違った文化を理解し，国籍に関係なく一人の住民として対等な関係で地域をつくっていくことが重要である。

■弁才天■

テ ー マ ：金沢大学における教育の国際化 ～ポスト SGU の展望～

ファシリテーター：足立英彦 学長補佐，佐藤智哉 准教授
ステークホルダー：自治体１名，企業１名，地域３名，学生３名

地域の中核大学としての金沢大学には，北陸地域の国際化を牽引する高等教育機関としての役割が期待されている。本分科会では，はじめに，海外大学との学生交流における派遣学生数や受入留学生数の推移について，コロナ以前，コロナ禍，そして回復傾向がみられる現在の状況や，「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU 事業）」期間中に実施してきた様々な取り組みについて情報共有を行った。その後，今年度から新たに設定した「金沢大学国際化推進ビジョン」を基盤としつつ，地域の関係者の方々と連携しながら，どのようにして教育の国際化を推進するかについて意見交換を行った。

【意見交換】
1．日本人学生への留学支援，異文化交流等の機会の増加
・コロナ禍によって日本人留学生が留学に行く機会が減ったこともあり，アフター・コロナになった今でも，自身が留学するというビジョンが見えづらい日本人学生が多くいる印象がある。日本人学生と外国人留学生が自国の料理を互いに作るイベントなど，キャンパス内で異文化交

流・多文化交流できる企画が増えると，留学へのハードルが下がる。対面での交流は，より相乗効果が高まる。たとえ海外に行ったことがなくとも，キャンパス内でこれらの機会が増えると，それだけでも視野が広がる。積極的に行ってほしい。

・海外留学はコストがかかるため，大学が奨学金支援などを充実させてもらえれば，多くの学生がそのチャンスを得られるようになる。また，イギリスのエジンバラ大学では，自国の学生よりも他国の学生の方が学費を高く支払う必要があるが，在学生４万人のうち半分以上の学生が留学生で占められている。高いコストにもかかわらず，それでも行きたい大学として金沢大学が選ばれるには，より積極的な広報が必要だと感じる。

２．外国人学生の受入れ増加に伴う効果及びその支援

・現在は日本人学生の留学支援を充実させることが念頭に置かれているが，今後増えてくるであろう外国人学生についても検討すべきである。当然，外国人学生も他国に留学する権利を有していることから，検討課題として想定した方がいい。経験上，在学生の３割が外国人学生となったときに，かなりドラスティックな変化が大学に起こる。これまで日本語が当たり前だったことが，使用言語が英語などで統一され，コミュニケーションが活性化する。これは，真のグローバル大学になる一つの切り口になるかと考える。

・外国人学生の就職支援もより一層充実する必要がある。留学生本人の希望次第だが，日本国内ももちろんだが，帰国後（自国）の就職先も含めて，大学がバックアップできる体制があるといい。様々な企業等との交流を深めておければ，留学生支援が充実するように感じる。

・JICA（独立行政法人国際協力機構）留学生など，日本語ができない，英語を使用言語とする外国人留学生を積極的に受け入れることで，大学の英語化や国際化が一段と進むと考える。初めは抵抗があるかもしれないが，英語を勉強しようという学生や教職員のモチベーション向上につながる。

３．その他の意見

・今後の世界の経済や人口増減を考慮すると，大学の戦略として，グローバルサウス（インドやインドネシア，トルコ，南アフリカといった南半球に多いアジアやアフリカなどの新興国・途上国の総称）との交流を積極的に行うべきである。

・人間社会学域では，特にコイル型授業（授業の数回分を海外の大学提携校と共同で実施すること）に力を入れている。深い議論ができるかどうかは難しい面もあるが，学士課程レベルであっても，海外の学生と何らかのやりとりをする，自分の意見を外国語で話すような経験を積むことは非常に重要である。

・小規模の自治体では，大学の国際化による連関を想定しづらい現状にある。例えば，英語でのコミュニケーションスキルを有する人材を活かそうにも，外資系のホテルの誘致など，その人材の受入基盤がないことには難しい。しかしながら，自治体としては観光産業など，

英語化や国際化を想定した取り組みなどを検討すべき余地があるということでもある。地域の魅力を活かした取り組みなどにもつながる可能性もある。

会場展示コーナー

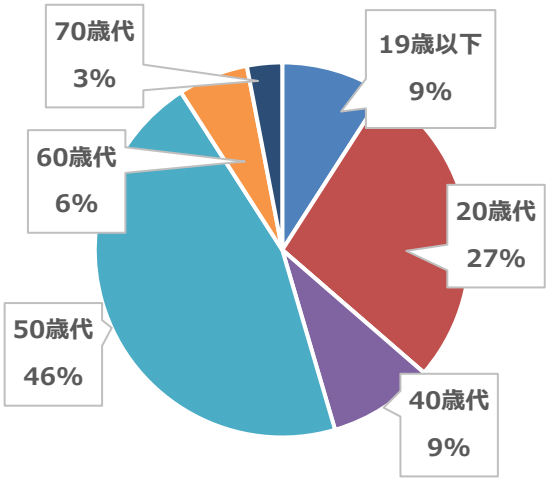
金沢大学特別支援学校高等部が作業学習として販売している，すずかけクッキーを展示し，会場参加者の皆様にすずかけクッキー（ミックス）をお配りしました。

また，休憩時間には金沢大学 YABU＆CAFÉ 丹のコーヒーをご用意しました。

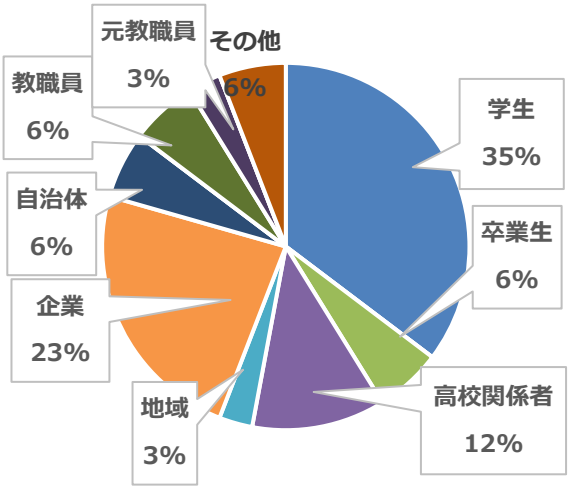
アンケート結果

回収件数〔回収率〕：33 件〔48%〕

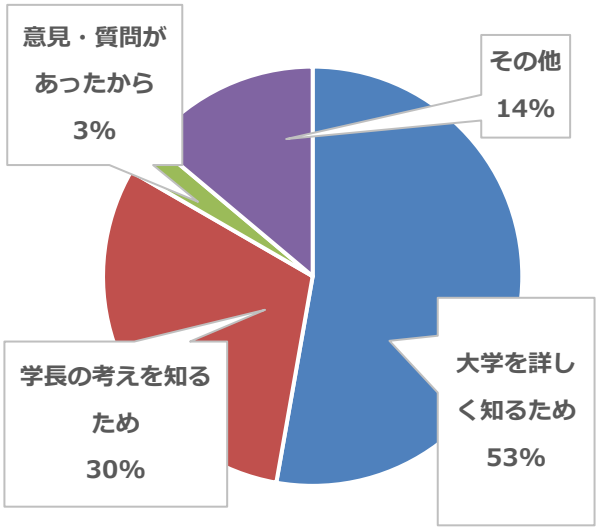
【１】年齢



【２】金沢大学との関係



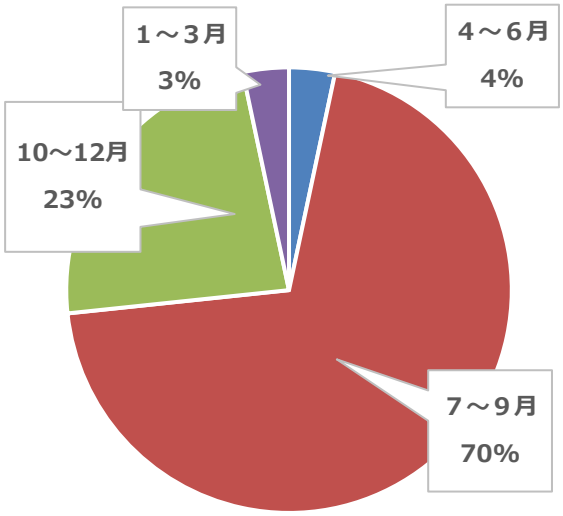
【３】参加目的



その他御意見

・入試課の方からお誘いがあったため。
・地域のみなさんの意見を知るため。
・ご案内をいただいたから。
・参加してほしい旨の連絡をもらったから。

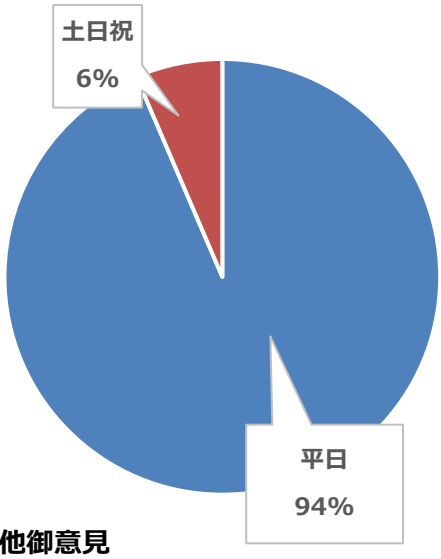
【４】（１）適当な開催時期



その他御意見

・授業期間外だったら学生は参加しやすい。
・長期休み中がありがたい。

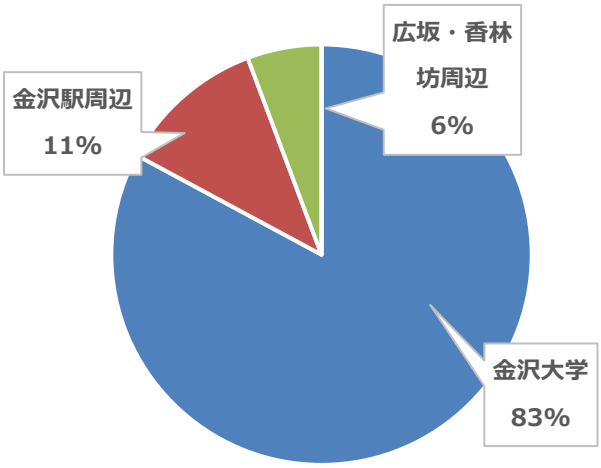
【4】（2）適当な開催日



その他御意見

・あまり人がいない休日こそ，多くのステークホルダーで盛り上げられるのでは？
・冬場でなければよい。

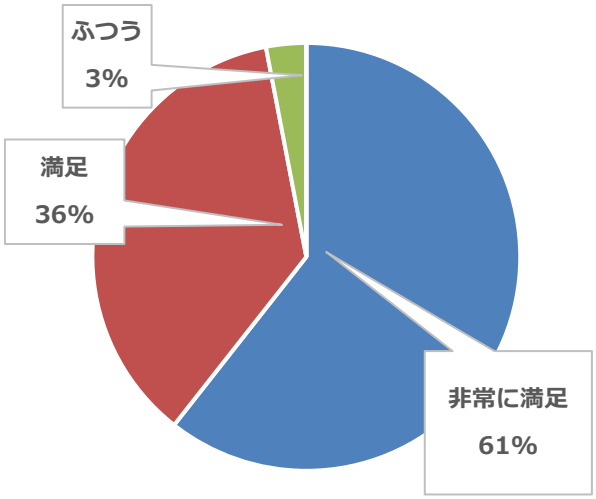
【4】（3）適当な開催場所



その他御意見

・学生としては大学の方がよいが，外部の方は街中の方がよいと思う。
・金沢大学で開催するからこそ意味がある。
・街中は車が停めにくい。

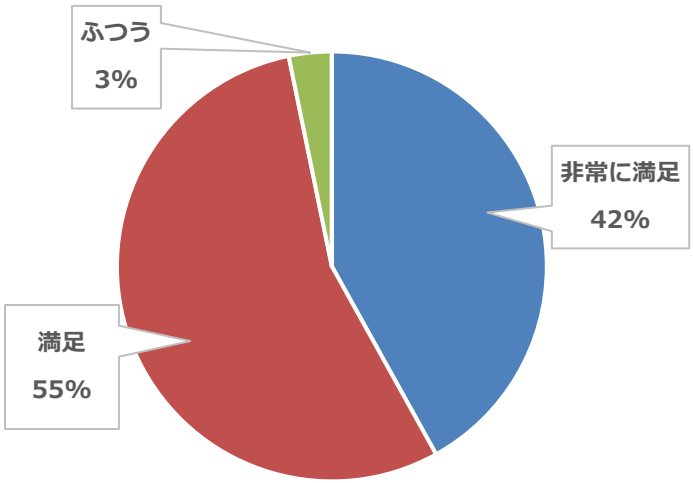
【5】近況報告



その他御意見

・県内外の一般市民からの評価や評判なども知りたいと思った。
・和田学長に代わってからの変化，方向性を感じた。
・学長の考え方が非常によく分かったので，よかった。

【6】分科会



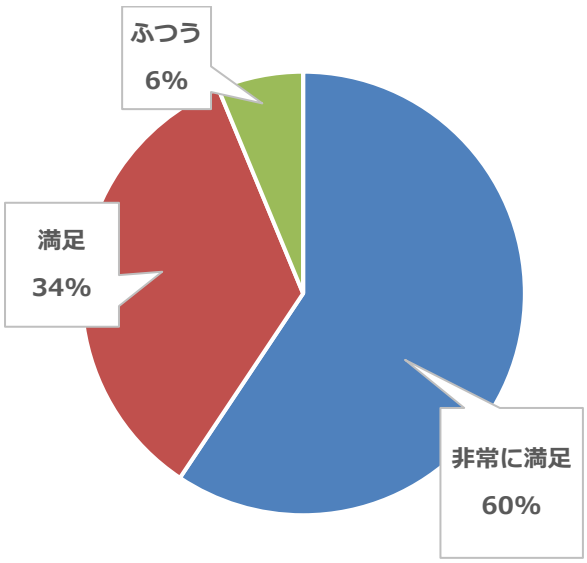
その他御意見

・もう少し時間がほしかった（ほか同意見３名）
・少人数，他業種の方々と意見交換できてよかった。
・学長の考え方が非常によく分かったので，よかった。
・学生への質疑が大半を占めていた。学生との交流・ヒアリングを普段から頻繁に実施したらよいのでは？

（前頁に続く）

・色々な意見が聞けて，非常に面白かった。
・ほかの方の発言が聞こえづらかった。
・KUGS で入学した学生の生の声を聴くことができたのは大変良かった。（ほか同意見１名）
・議論するテーマについて，学内や地域に問いかけた時の返答集もほしい。
・その場で質問を考えるのは難しかった。（ほか同意見１名）

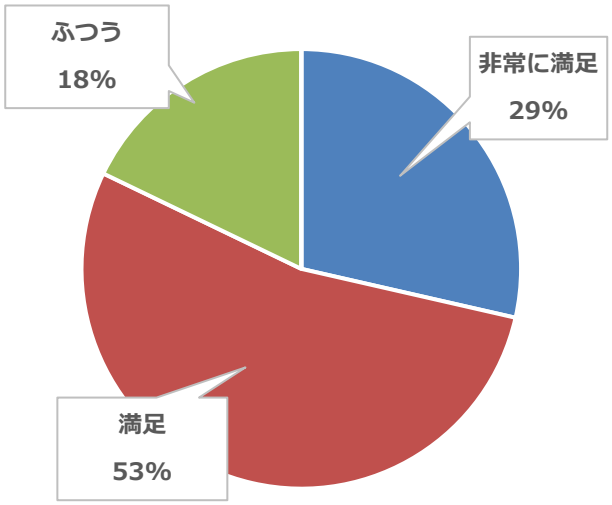
【７】配布資料



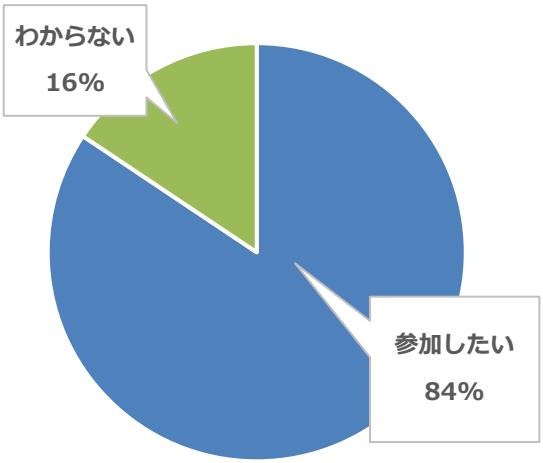
その他御意見

・テキストが多いので，事前に欲しい。
・各分科会の資料も，データでよいので全体共有いただきたい。

【８】質疑応答



【９】次回もステークホルダー協議会に参加しようと思いますか？



【１０】その他アンケートで頂いた御意見等

【教育カテゴリー】

① 高大接続の意味で，高校・中学教員と大学との接点を多くしてはどうか。
広報宣伝および大学の知名度向上の観点からも，教員研修や勉強会などをオンライン（オンデマンド，ライブ）で定期開催できると意義深いのではないか。

② 高校では，依然として偏差値や知名度をものさしとして進路志望が決定している状況があるため，金沢大学の教育内容や環境の良さが十分に伝わっていないように感じる。
高校生が接する機会をよりつくり，金沢大学での学びの魅力が伝わると高校生の意識に働きかけることができるのではないかと思う。高校教育においても外部リソースの活用が求められていることから，例えば課題研究の多様なテーマにおける大学教育の指導（アドバイス等）で高大連携が進められると大変ありがたいと思う。

③ 学士→博士までのビジョンが高校の先生方にも，より伝わると良い。

⇒金沢大学の回答

① 令和５年 10 月に大学コンソーシアム石川と連携して，高校教員向けの金沢大学キャンパスツアーを開催しました。また，積極的に高校生や PTA（父母等）等を受入れてキャンパスツアーを実施しました（35 件，参加者 1,998 名）。
また，本学教員による出張講義（20 件，参加者 1,402 名），職員による進学相談会（25 件，参加者 664 名），金沢大学生による出身校（母校）訪問（11 件）を積極的に実施しました。オンラインでは，夏季キャンパスビジットでのリアルタイム配信や高等学校等への進学説明会（オンデマンド配信）を実施していますが，高校等の教員研修や勉強会などは開催していないため，関係教職員と検討します。

② 金沢大学では高大接続の取組として「KUGS 高大接続プログラム」を用意し，高校生に対しセミナー等様々な探究的学びの機会を提供しています。「KUGS 高大接続プログラム」は，「大学での学び」のレポートを作成するために開発した本学独自の高大接続プログラムですが，①Live セミナー＜対面又はオンライン参加型＞，②Web セミナー＜Web 視聴型＞，③ラウンドテーブル＜対面又はオンライン参加型＞の３タイプがあります。
この「大学の学び」のレポートと「高校での学び」のレポートの両方が評価基準を満たすと KUGU 特別入試の出願資格を付与しており，北陸地域を中心に受講者が増えています。また，オンデマンド配信またはハイブリッド開催により，「高等学校等への説明会（５月，９月，11 月）」や「高校長及び進路指導担当教諭との懇談会（７月）」を開催しており，全国の高等学校等にも案内しています。
今後も全国的に知名度を上げる取組を実施するとともに，広報・宣伝活動を強化します。

③ 学士課程に広く配布する冊子「大学案内」に大学院に関する記載を増やすなど，進学相談会等の説明機会において積極的に説明を行っているところです。
さらに広く知ってもらうためには，オンラインでの広報活動や指導される高等学校等の教員への丁寧な大学院進学のビジョンについて説明する機会を増やすことも重要であるため，関係教職員と検討します。

【広報カテゴリー】

① 今後希望する金大グッズ

・服につけられるブローチや学習道具とのコラボ（既にあるものも含め）グッズ
・アパレルブランドとコラボしたグッズ（有名な EC サイト等で購入できるようにする）
・タオル
・ロゴなどがデザインされたホワイトボードに付ける磁石

⇒金沢大学の回答

オリジナルグッズについては，学内外からさまざまなご意見・ご要望を頂戴しており，服飾品やステーショナリー，有名ブランドとのコラボ商品についても，昨年度から検討しているところです。大学ブランディングの中長期的ロードマップに照らし合わせ，ブランディングにおけるデザイン・イメージ戦略と連動させながら，適宜，開発してまいります。

② 「X（旧 Twitter）」にも楽しそうな情報を流しても良いと思いました。

⇒金沢大学の回答

令和 5 年度は Instagram を用いたインナーブランディングの強化に注力しており，在校生の生き生きとした姿を発信しております。今後は「X（旧 twitter）」での発信も検討してまいります。

【その他御意見】

・普段は交流する機会が少ない他学類の教授や学外のステークホルダーの皆さんと意見交換をすることは非常に刺激的で有意義な時間だった。
・山崎先生の強力な TOP リードから，和田先生の色が出てきているように感じた。TOP のアカデミアの力を持ち，地域中核から世界にはばたく金沢大学に，企業としても期待している。
・金沢大学未来ビジョン「志」について，よく伝わった。
・大学のこと，他学生の意見に触れることのできる貴重な機会で非常に刺激を受けた。今回のステークホルダー協議会に参加して得た知見を自分や周りの人達に還元していきたい。
・様々な立場の方のご意見を聞くことができた。
・もう少し学生が参加しやすい雰囲気にしてほしい。
・まとめのときに，アナウンス等があったり，ベルがあったらよい。
・大学が多くの行動や企画を動かしていることがわかった。しかし，学生に伝わっていないのが残念なので，報告の仕組み等を工夫するのが大切だと感じた。
・企業が求める人材について議論したい。五感を用い，現地に赴き，現場力を育てる必要性を感じることができた。
・金沢大学の現在の取り組み，入試制度について改めて知る事が出来た。

⇒金沢大学の回答

多くの貴重な御意見をありがとうございました。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

発行・編集　金沢大学総務部総務課
〒920-1192　石川県金沢市角間町
電話 076-264-5111